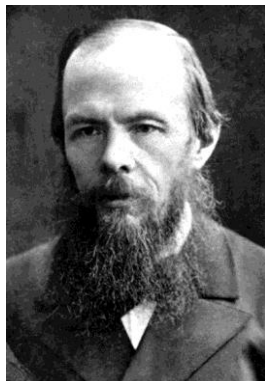


# 『Mind Charging』

第 189 回 発行：入試広報室 発行日：令和 3 年 1 月 16 日

## ドストエフスキーの名言



### **Where there is no love, there is no sense either.**

愛のないところには、良識もまた育たない。

全くもって『その通りです！』と感じる言葉です。“愛と良識”とは『セット』のようなものであると考えます。私の感想としては、この言葉の順番を逆にして“良識のないところに愛は育たない”という方が心に刺さります。時々このコラムで私が使う言葉に『自分の物差し』というものがあります。この物差しこそが良識であると私は考えており、みなさんには“自分本位で物事を判断しない”しっかりと自分の物差しを持ってほしいと思っています。

では、どうすれば自分本位になりすぎないように良識を持って判断できるかと言えば、やはり『愛情』が必要不可欠ではないでしょうか。自分の判断にはどのようなメリットやデメリットがあるのか。デメリットがあるとして、それによって人を傷つけてしまうことにはならないかなど、いわゆる『気配り』ができることも愛情があるからこそだと思います。このように述べると“自分の人生なのに誰かのために気を使ってばかり・・・”と考えてしまいがちですが、自分の人生を充実させるために日々努力をしていることや、絶対に譲れないことがあるということは誰にでも当てはまることであり、それを理解した上で譲り合い、助け合うことが時には必要であり、それこそが愛情なのだと思えます。

このコラムで何度も思いやりなどの『愛情』を持つことの重要性について述べてきていますが、これまで出会ってきた大切な仲間と共に、これまで以上に素敵な時間を共有しながら進んでいくためにも今回の言葉のように『良識』を持った中で正しい判断ができる自分の物差しが必要なのではないでしょうか。学校とはそういった『人間力』を鍛える場所でもあると思います。正智深谷高校で自分の物差し作りに励み、今後の人生を素晴らしいものにするための舞台としてフル活用していきましょう！

(編集委員：入試広報室 鈴木)

フョードル・ミハイロヴィチ・ドストエフスキー(ロシア語: Фёдор Миха́йлович Достоевский; IPA:、1821年11月11日〔ユリウス暦10月30日〕 - 1881年2月9日〔ユリウス暦1月28日〕)は、ロシアの小説家・思想家である。代表作は『罪と罰』、『白痴』、『悪霊』、『カラマーゾフの兄弟』など。レフ・トルストイ、イワン・ツルゲーネフと並び、19世紀後半のロシア小説を代表する文豪である。(Wikipedia 参照)